

決算を認定!

定例会の 主な内容

第10回(9月)定例会は、9月15日から10月15日までの31日間にわたり開催しました。この定例会では、令和2年度沼津市一般会計歳入歳出決算の認定等32件、議員提出議案1件を審議し、いずれも原案のとおり議決しました。

ここでは、令和2年度の一般会計、特別会計及び企業会計の審査、歳入・歳出決算額等の主な内容をお知らせします。

特別会計決算

会 計	歳 入	歳 出	差 引 額
国民健康保険事業	214億8,986万円	208億8,604万円	6億383万円
土地取得事業	1億1,877万円	1億1,877万円	0円
介護保険事業	175億7,504万円	170億2,932万円	5億4,572万円
後期高齢者医療事業	27億338万円	26億9,595万円	744万円

企業会計決算

会 計	収 入	支 出	差 引 額	
病院事業	収益的収支	106億9,939万円	113億3,084万円	△6億3,146万円
	資本的収支	6億1,237万円	10億2,603万円	△4億1,365万円
水道事業	収益的収支	30億3,780万円	25億6,688万円	4億7,092万円
	資本的収支	10億6,902万円	22億8,176万円	△12億1,274万円
下水道事業	収益的収支	52億7,076万円	49億6,823万円	3億253万円
	資本的収支	20億6,659万円	41億6,980万円	△21億321万円

◆収益的収支：事業活動に伴って生じる収入と支出 ◆資本的収支：建物や機器などの資産の購入・売却に係る収入と支出
◆一般会計から病院事業会計へ16億1,838万6,000円、水道事業会計へ326万2,000円(繰越2,000万円)、下水道事業会計へ23億3,000万円を繰り出しています。なお、企業会計決算額は、消費税及び地方消費税を含みます。

特別会計企業会計予算決算委員会での主な質疑

問 国民健康保険の特定健康診査の受診率向上のための取組は。

答 受診率向上のための取組として、若年者対象の集団健診を実施したほか、特定健康診査とがん検診を同時に実施することにより、受診のきっかけづくりや受診しやすい環境の整備に努めた。また、本市の特定健康診査等の普及・啓発活動を支援するサポーター企業の協力を得て、受診者に入浴施設等の割引券の配付を実施した。

問 土地取得事業特別会計にて保有している沼津駅周辺総合整備事業促進地のうち杉崎町4号管理地の残地活用の考え方は。

答 杉崎町4号管理地は、その一部を令和6年度末まで静岡

地方検察庁と借地契約を締結しているが、沼津駅周辺総合整備事業の進捗を踏まえながら、市民へ広く還元できるよう活用の在り方について検討していく。

問 令和2年度におけるフレイル対策事業の実績は。

答 令和2年度は令和元年度の金岡地区に加え、新たに香貫地区をモデル地区として選定し、フレイルサポーターの養成を行った。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、事業の一部を中止したものの、感染防止対策を徹底した上で、フレイル予防講座やフレイルチェックを実施するなど、可能な限り事業を展開したことにより、フレイル予防に効果があったものと認識している。

問 市立病院における新型コロナウイルス感染症に関する対応は。

答 新型コロナウイルス感染症への対策として、令和2年4月に沼津市立病院新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、刻々と変化する状況に対応するため、毎日、対策本部会議を開催し、コロナ対応に関する意思決定を迅速に行ってきた。これにより、院内感染を防ぐ取組として、職員に対しては、行動制限や感染防止対策の徹底、感染が疑われる場合のPCR検査を実施したほか、入院・外来患者に対しては、来院時に発熱トリアージを行うとともに、入院患者については手術前にPCR検査を実施した。また、新型コロナウイルス感染症患者の入院を受け入れたほか、

院内に帰国者・接触者外来や陽性者重症度判定外来を開設するなど、県東部の新型コロナウイルス感染症対策実施医療機関としての一翼を担ってきた。

問 水道施設の耐震化の進捗状況は。

答 沼津市水道ビジョンにおける令和2年度の目標耐震化率に対する進捗状況は、配水池が目標値83%に対し進捗率は78.5%で、目標値を4.5ポイント下回ったが、これは原の配水池耐震補強工事を令和3年度へ繰り越したことによるものである。基幹管路は目標値41.5%に対し進捗率は40.3%、耐震化優先管路は目標値27.7%に対し進捗率は29%で、耐震化はおおむね計画通りに進んでいる。